

令和4年度 第2回東大和市まち・ひと・しごと創生会議 会議要録

会議名	第2回東大和市まち・ひと・しごと創生会議
開催日時	令和4年7月16日（土）午前9時30分から午前11時30分まで
開催場所	会議棟第6・7会議室
出席者	（委員）牧瀬委員（座長）、小島委員（副座長）、目黒委員、佐近委員、水上委員、市川委員、高橋委員、米澤委員、岩田委員、堀江委員、稲葉委員、前村委員 （事務局）神山企画財政部長、田代総合戦略推進担当課長、神山企画政策課政策推進担当係長
会議の公開・非公開	公開 傍聴者 0人
会議次第	1 開会 2 座長あいさつ 3 内容 （1）東大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略の施策の効果検証について （2）前回の会議以降の取組について （3）まち・ひと・しごと創生に関する意見交換

会議の結果及び主要な発言

（1）東大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略の施策の効果検証について

事務局から、内容（1）について説明をした。

【要旨】

- ・東大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略（補正版）の概要について説明した。
- ・東大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略（補正版）に基づき、令和3年度に実施した施策及び事業の進捗状況について報告をし、意見を求めた。

座長：

基本目標が4つあるため、基本目標1から順に意見を述べてもらいたい。

【基本目標1 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる】

委員：

基本目標1については、全体的に良く推進していると評価している。2点申し上げる。

1点目としては、出生率の向上についてである。結婚、出産、子育て、教育の一貫した施策が、「日本一子育てしやすいまち」の実現には不可欠である。その中でも出産については懸念されてきたと思うので、その辺を理解した上で申し上げるが、最近の調査では、2人目、3人目の出産をためらう理由として、経済的な要因を挙げている。政府も出産費用の助成増額を考えているようだが、出生率を上げるためには、2人目、3人目と産みやすい環境づくりが必要である。金銭的な助成はもちろんのこと、当市の場合には既に待機児童数が0人ということで、これも素晴らしい成果であると思うが、今後2人目、3人目と増やしていく場合に、女性がこれから社会進出して働くということになると、保育施設が更に必要になるのではないかと思う。したがって、保育施設の増設について、今のうちから対策を講じていく必要があるのではないかと思う。

2点目としては、学校教育について、当市は良く取り組んでいると思うが、学力レベルの向上という点において、教育環境で見ると、先生方の負担を見直さないといけないと思う。先生方の負担を軽減するという意味で、クラブ活動の外部委託に着目するのはどうか。このことを当市で施策として導入することで、少しでも先生方の負担が解消されるのであれば、前向きに取り組むべきであろう。また、教育の質を上げるという意味では、例えば児童生徒の研究心、

好奇心を育てるために、外部企業の支援を仰ぐのも一つの方法であると思う。例えばSDGsをテーマとした学校間の研究発表会をハミングホールで開催することによって、父兄に参加してもらい、児童生徒の研究発表を通じて好学状態を確認し合う、応援し合うというのも一つの方法である。また、作文コンクールを実施し、市長賞、教育長賞、議長賞を提供することにより、児童生徒の好奇心を高めることも良いと思う。ただし、その場合には経費がかかるため、地元の民間企業あるいは教育に関係のある企業の協賛を仰ぐ。地元でいえば、市内金融機関や森永乳業(株)、西武鉄道(株)、農協、ロータリークラブなどの協賛を受け、運営費を賄うという方法もあるのではないかと思う。

最後に別件にはなるが、市報の連載として掲載されている、「子どもの未来を守る～持続可能な行財政運営ってなに??～」について、非常に分かりやすく、素晴らしい取組である。こういうものを、子育て世代のお母さん方が読んでいただいたら、大きな啓蒙になると思う。

副座長：

出生率の向上の件では、女性の社会進出が進んできているので、保育施設については、待機児童0人という結果は出ているが、古い保育施設を建て直す際に定員増を図っていく等、引き続き預けたい人が預けられる環境を整えていきたいと考えている。また、日経DUALの共働き世帯が子育てしやすいまちランキングで3位に入った際にも話をしたが、親御さんたちが何に困っているのかについて、担当部署が真摯に捉えた結果、これをやるべきであると考え、実際に「病児・病後児保育」の取組を開始した。こうした取組は、ランキングで数字を取るためにやったのではなく、困っている方に対してどのようにしたら良いかを考えて進めた結果、皆さんに評価していただいたと捉えている。引き続きこれまでのように取り組んでいきたい。一方で、少子高齢化により子どもが減っている事実もあるため、保育施設の「数」だけを増やせば良いというのではなく、「質」の充実にシフトしていく必要があるのではないかと考えている。

「日本一子育てしやすいまちづくり」は、市長の一番の政策であることから、これまでは、待機児童の解消に向けて注力し達成してきたが、次は教育にシフトしてきているところである。GIGAスクール構想のタブレットの配布についても、本市としては、市長が早期に決断をし、もしかしたら財政調整基金を取り崩してしまうという中で導入し、積極的に進めている成果が出ていると思っている。学力がすぐに向上するというのは難しいが、一步一步そのことについても努力していく。先生が忙しいという中では、学力試験の採点を先生がするのではなく外部に委託する等、極力先生の負担を軽減させるよう努力をしている。外部の指導員については、メリット、デメリットがあることから、慎重に考えながらできるところは進めていきたい。また、児童生徒の向上心について、作文コンクールは、市長賞、副市長賞があったり、税の作文があったりと、積極的に取り組んではいるが、PR不足なのか、なかなか認知してもらえていない現状がある。入賞した児童生徒が、もっと喜んでもらえるように市報等でPRしていきたい。また、最後に評価をいただいた市報への連載企画についてであるが、市のことについてあまりPRをしてこなかったことから、市がどのような現状にいて、どのような課題を有しているのかを、市民の方に知っていただき、共に前向きに進んでいくことで、住民福祉の向上を図ろうという企画である。

委員：

資料1の3ページ、子育てネットワークの充実の指標として子育てひろばについて記載されているが、私自身、3人の子を育てる際に利用させてもらった。現在、市内には3園の子育てひろばがある。子育てひろばとは、保育園とは別に部屋があり、例えば乳児や幼児がいる親子が、時間がある日に自由に子育てひろばに行き、安全なおもちゃ、安全な遊具があり、その部屋の中には常に保育士の先生がおり、一緒にそこで過ごすことができる場所である。子育て中の親子というのは、1対1で、部屋の中でとても息苦しい空間であると感じることがあり、その時にふと子育てひろばに足を運ぶと、とても気分が晴れるし、保育士さんから色々な話を聞けて、子育て頑張ろうという気になれるので、子育てひろば事業は、とても良い事業であると思っている。そのため、現在は市内に3園であるが、地域に1つのもっと数を増やすこ

とができたら、更なる子育て支援につながると思う。

資料1の4ページ、学童保育所等の運営について、学童保育が第三小学校内にできたが、最初に話だけを聞いていたときは、学校の中に更に学童保育所ができることになり、子どもたちの気持ちを考えたら、学校の勉強を1時間目から6時間目までやってきた後に、また同じ学校の中に移動して親の帰りを待つ、というのは切ないなと感じていたが、実際に出来上がった様子の話を聞くと、学童として使用する教室に緑の絨毯が敷かれ、木製のテーブルがあったり、好きなことができる十分な空間があったり、少し疲れていたなら横になれる空間があり、とても癒しの空間を作っていた。そのため、今までの学童は、学校から学童保育所まで道路を横断して低学年には危ないこともあったが、学校内に設置された学童は、学校内での移動で完結し、癒しを与える空間を創出していることから、良い取組であると思う。他の学校にも広げていってもらえたら良いと思う。

資料1の5ページ、GIGAスクール構想について、私の息子が第八小学校におり、一人1台端末を有効に活用させてもらっている。指導員が不足している等の課題があると思うが、大人でもパソコン操作に得手不得手があるように、先生方にもそのような部分があるように感じたことがあった。逆に子どもたちは吸収力が速いので、どんどん自分で調べて上達していき、先生が児童生徒に操作方法を聞くことがあるようで、決して指導員がいらないから上達できないのではなく、先生と児童生徒と一緒に成長していけたら良いと思うので、これからもぜひ続けていただきたい。また、先日、定期試験前に学級閉鎖となった学年があったが、端末の使い方を小学校の頃から学習していたので、翌日から授業を端末で配信することになったがスムーズに対応できたことは、生徒たちにとっても良かったのではないかなと思う。先日、ニュースでも、教育の分野でパソコンを取り入れた授業をする学校は、親にとっても興味があり、通わせたい学校になると言っていたので、この分野ではこのような取組があることを、市のPRとして伝えていっても良いのではないかなと思う。

委員：

子育て世代として、意見を述べるに当たって、PTAの役員にも気づきについて聞いたので何点か申し上げる。

私の娘は、0歳から保育施設に通っていた。他市では待機児童がいるが、当市ではそういうこともなく保育園に関しては本当にスムーズであった。病児病後児保育施設やお迎えサービスが利用でき、保育園時代は本当に助けられたと思っている。

学校のことについては、第一小学校は歴史がある小学校なので、トイレが衛生的にどうかということがある。尿石の除去はしているが配管の問題とされている。要望を取りまとめると、一小のトイレのにおいがすごく気なるという声が多い。新しい施設を作る前に、古い各学校の設備の見直しをしてほしいと思っている。

学校給食のことについては、統計的に見ると給食費の金額が安価で、下から数えた方が早い。娘によると、献立では「豚丼」であっても、実際には「玉ねぎ丼」だったという話を聞いた。給食費を押さえてもらっているのは分かるが、育ち盛り子どもたちには、たんぱく質などが少ないと感じる。保護者としては、給食費の金額を上げて良いので、もう少し食材を確保してほしいという話があった。

また、昨日、教育長との懇談会に参加して、各校のGIGAスクール構想の話聞く機会があった。GIGAスクール構想は各校にばらつきがあると思った。一小においては、そこまで盛んではないと思う。盛んな学校では、端末を使いこなして、「適正な使い方としてフィルタリングなどを早めに学校の方で児童に指導してほしい」という声もあれば、当校では、ICTの導入が定着するまでは行っていない、登下校で端末を運ぶのが重すぎるという感想が多く使いこなせているとまでは言えないという声もあった。GIGAスクール構想についても、市で同じようなスキルやレベルになれば良いと思った。

副座長：

トイレの関係についてであるが、学校の施設全体ではどこの学校も建ててから年数が経過しており、統廃合や建替えの検討をしている時期である。それに先立って、和式のトイレを洋式にという要望はかなり強かったこともあり、低学年のトイレから洋式のトイレに直し始めている。トイレの改修は、部分的に直すかということと学校全体をどうするかということとを総合的に判断することになっているため難しいところがあるが、学校にもできれば温水洗浄便座を入れてほしいと指示を出し導入が進んだと思っている。ただし、費用の関係で、低学年のトイレから少しずつ改善をしている。

給食の関係についてであるが、生活が苦しいという意見を議会からいただいでいて、また、全体の流れで言うと給食費を公費で持ちなさいという流れの中で給食費を上げるとはなかなか言えない。給食費については、物の値段が上がったりすると必要なカロリーを担保できないときが出てくる。そこは確保すべきであると先ほど話があったが、26市でも非常に安い給食費になっている。良い意見をもらったので、時期を見て一定の金額を上げさせてもらい、食育ということもあるので、楽しんで、おいしく食べられるようにしたい。市が自前で行っていたときから切り替わった後、手作りの給食などが好評である。ある程度お金を出してあげないと、創意工夫だけでは解決できないところであると思う。今は、コロナ禍で皆さんの生活が苦しいということもありすぐということではないが、そこは意を強くしたところである。

GIGAスクール構想について、得意な先生がいるところが進むということであるが、教育長にお願いしているのは、「良かったところ（学校）に、追いついていない学校がすぐ追いついてくれ」ということである。その学校だけ良くて、「うちではこんなことができますよ！」と1校で宣伝して、他の学校ができていないのはだめである。良く取り組んでいる学校を先生として捉え、他の学校はすぐに追いついてほしい、そして、更に上に向かってほしいとお願いしている。

【基本目標2 しごとをつくり、安心して働ける環境つくる】

委員：

昨今、コロナの関係で非常に厳しい環境である。キャッシュレスサービスを6回実施し、今年の9月にまた実施する。非常に好成績を収めていて、市内事業者は助かっている。今の時流に合わせたサービスを提供するというのは、ありがたいと思っている。それから、保証料の補助、利子補給についても助かっている。ただし、緊急融資を受けた方が既に2年が経過していて、据え置きの方がこれから返済に向かうときに非常に厳しいと思う。手元に財源があれば良いが、業界の状況の中でも、その辺は地元の経理士さんと相談しながら、早めに手を打つことが大事であると思っている。それから商工会の加入率の件であるが一進一退である。廃業で辞めていくところもあれば、緊急時に金融機関との相談等の窓口になった中でぜひ加入してほしいと勧誘して、簡単に言えば10人入って来たら10人辞めるという関係である。既存の事業者がそのまま伸びていけば良いのだが、そういう面では厳しい環境である。加えて、仕入れの値段が上がり、物流が変わってきていて物価が上がってきているため、これを売価に転換するというのはすぐにはできない。この1、2年、特に今年の暮れから来年にかけては、物はますます値上がりすると思う。

それと、私も一小でお世話になっているが、ここで100周年を迎える。伝統ある学校であるが、今の校長先生は、コミュニティスクールの創設が喫緊の課題になっている。これはどこの市町村でもやっている。簡単に言えば、学校教育と社会教育があるが、地域社会においては社会教育で地域をどのように支えていくかということになり非常に難しい。自治会の加入率が当市でも30%ぐらいである。隣が誰だかわからないというのが現状である。いわゆる近隣の付き合い、相互扶助というものが薄れている。加えて個人意識が高くて個人情報等についてクレームがついて、そういう面では生活しづらい世の中になっている。本市は、加えて財政力が乏しい状態である。例えば、暮らしの面で安心して住める世の中として、私が平成9年に市P連の会長であった時に、「困ったときの救急ハウス」を創設した。当時は、全市内に配り、その看板を掲げることで、いろいろな方が市に来たときに、「この市は意識の高いまちなんだ」

という意識を形成してもらえた。それから25年ぐらい経ち、いまだにそれが続いているが、これはお金がかからないものである。こうした半面、今ではその意識付けができてないと感じる。創設者の一人としてなぜやらないのかなと思っている。当時やったときに反対もあったが、やりたくなければやらなくて良い、やりたい人はぜひやってくださいという考えであった。要は、子どもを育て、世の中に送り出す、東大和市民として活躍してもらいたいという気持ちがある。そういう面では社会教育をこれからどんどん充実していかなければならない。学校の先生だけにそれを全部押し付けるわけにはいかない。

それから、先ほど作文の話が出た。私も人権擁護委員をしており人権の作文を中学校に配っている。800編から1,000編が集まってきて9月に選考をする。副校長には言っているが、人権の作文だけは絶対にやってくれとして、5つの中学校にお願いして参加してもらっている。今先生方は、非常に忙しいので、児童生徒のほうに目が行き渡らないこともあるが、そうではなく、ゆとりを持った中でやってもらおうと良いと思う。例えば、給食費について、平成9年から自動振替に変えてほしいと教育部長にお願いして実現した。それまでは学校の先生が、子供たちが持って来たお金を数えていた。当時、「先生方は、学校のことをやってください。学力のほうを。これはもう自動振替でやれば良いのだから」ということで、今郵便局で自動振替をやっている。ちょっとしたことを工夫することによって、それほどお金をかけないで少しずつ進められると思っている。

委員：

基本目標2の施策の3番の「しごとを見つける力になる」であるが、その中の就職情報室との連携について話をする。今、ハローワーク立川では、管内で持っている就職情報室は4つある。その他に東村山、小平、昭島がある。本所を含めた中で全体的に、就職した人数では、コロナの時期で落ち込んでいるので下がっているのは仕方ないところがある。ただし、同じ就職情報室でも、例えば小平市では数は圧倒的に上がっている。そういうところを考えたときに、東大和市で何ができるかであるが、就職面接会について、積極的な市は連携をしてどんどんやっているといるところがあるので、就職情報室があり、マネージャーを置いている東大和市とは、できれば連携して就職面接会をやってもらおうと良いと思っている。さらに、これはお願いになるが、生活困窮者の部分であるが、相談件数が伸びているとのことであったが、ハローワーク立川との連携で考えると、生活困窮で働くことが可能な人や、まさに仕事を見つけられると思われる人たちというのは、ハローワーク立川の東大和市担当就職支援ナビゲーターと連携して、ハローワーク立川に対して送り込み件数を増やしてもらえると、それに伴って就職件数が増えることになる。私の持論だが、送り込んでもらう人数が増えて職業を紹介する人数が増えれば、必然として就職件数が増えるので、さらなる連携をとってもらえるとありがたい。

委員：

施策1の「しごとをつくる」の創業塾の受講者について、7年間で21件の目標をクリアしたが、中小企業大学校東京校と産業振興課と連携し、毎年創業塾のカリキュラムの内容等で協力をしている。工夫している点として、昨年度創業塾を受講して起業した方を今年の授業の中で呼び、体験談の話していただくという形をとった。そして、今年度も創業塾は来月8月から開始ということになっているが、偶然だが立川市と同じ日程で創業塾の開校ということになってしまった。ただ、東大和市の強みとしては、創業塾を無料で受講でき、一方で立川市は有料になっているので、ぜひ、東大和市の創業塾を受講してくださいとPRして行きたい。次に、2年ぶりになるが、毎年夏休みに子ども向けのセミナーを中小企業大学校東京校で行っていた。今、このような状況であるが、8月に今年の夏休み子ども起業スクールということで、「親子で起業体験してみよう」という企画をした。参加人数を制限しているので大きくアピールはしていないが、東大和市の方にぜひ参加していただきたいと思っている。既に23区や千葉県の方から親子で申し込んでいただいている。まだ枠があるので東大和市のお父さんお母さんで起業に関心がある方が受講していただけるように工夫して行きたいと思っている。引き続き東大和市の創業者数を増やしていけるように連携を取って行きたい。

【基本目標3 東大和市のサポーターをつくり、育てる】

委員：

12ページの観光事業について、指標として「観光事業の推進に対する市民の満足度」があり、課題として「市の知名度の向上及び魅力を発信する必要がある」とある。実はこれは合わなくて、市民にいくら観光のことを言っても市の中で回るだけで、対外的な別の指標なりあるいは事業の中で何か指標に合う事業があったほうが良いような気がした。直接市民の方に聞いても、パーセントが低いことは、きっと自分たちにとって観光のことをもともと知っているのだからPRにならないためである。これが指標としてあるのは良いのだが、例えば、うまかんべえ祭の来場者は、市外の方が多いので、それが一つの指標にはなり得ると思う。また、旧日立航空機株式会社変電所の公開日数の関係も、日数はこちら側の話であり、来場者の内訳が大事だと思う。地元の方がどのくらい、市外の方がどのくらいかを見ていったほうが今後の何が足りないのかということが見えてくる気がする。それと、キャラクターの稼働回数についても、課題でSNSとあるが可能回数ではなくて、キャラクターがどう活用されてきたかという、何かしら違う目標値や、事業を持ってきたほうが、今後の方向付けに役に立つのではないかと思った。

【基本目標4 人とのつながりを大切にしながら元気に安心して暮らせる】

委員：

先ほどの話で、基本目標の2の中の創業について、創業実績がかなり成果を上げて大変嬉しいと思うが、創業の業種の内訳がわかれば教えていただきたい。また、先日当市で空家対策懇談会ができたと思う。商店街で空き店舗がかなり増えてきている。この創業の際に空き店舗を開業時に提供するケースがあったかどうかについて聞きたい。

次に、基本目標の3の観光事業だが、認知度を高める素晴らしい事業を展開している。産業振興課が中心に運営していると思うが、これから当市の観光資源を活かしてPRして行く場合に、その人員を増やすことなど組織面、人的面での対応が必要なのかどうかを聞きたい。

委員：

開業した方の業種であるが、サービス業が多いと思う。現在も、チャレンジショップ「チェレステガーデン」で、中小企業大学校東京校の会員が洋食屋と全体の仕事でチャレンジしている。次に多いのがレッスン講師である。自分が勉強して良かったものをほかの人に教えていきたいということで、セミナー講師等で開業する方が多い。また、社会課題解決ということで、シニアの方の創業が増えている。お年寄りの方の病院への付添いを家族にお願いするのは気が引けるから頼めないという人に代行し、病院に付き添って行くような仕事を開業する方が増えてきている。

次に、商工会の空店舗の関係であるが、商工会と連携させてもらい中小機構ビジネスの会員を卒業した方に家賃補助をしてもらうシステムを作ってもらったが、今のところ実績は0である。なぜかということ、意外かもしれないが、東大和市の家賃が高いので、補助してもらっても高いということである。結局、中小機構ビジネスに貸事務所があるのでそこを使う。そこは2年間という期限が決まっているので、2年間が経ったら自分で自立することになっている。結果として、新しい事務所を見つけられなくて自宅に戻ってしまう方が多くいる。その中で、一人、二人、来年に満期を迎えるため場所を探し始めている方がいる。そこは商工会と連携していければ良いと思っている。

副座長：

観光の職員の話だが、どこに職員を配置するかということについては、住民福祉の向上が究極の目的であるから、費用対効果を考えなければならないと思っている。そういう中で、観光は受けがいいが、鎌倉市や京都市のように観光で潤っていると見るところでさえ新たな投資

をして行かないと費用対効果が難しいと言うという実情もある。職員が不足している状況であるため、観光に今すぐという答えを出すことについては総合的な判断をせざるを得ない。

委員

4ページの保育園の待機児童数について、令和2年度と令和3年度と待機児童0について高く評価したい。仕事を持って子育てをしている方には死活問題であるから、これは大変ありがたいことだろうと思う。

5ページのGIGAスクール構想は、市長の決断によって一人一人に配置された。これも素晴らしいことだと思う。高く評価したい。

次に、特産品の開発・販路開拓事業であるが、東大和市に越してきて誰かにおみやげを持っていこうとしても、東大和のものが無い。何か良いものが無いのかと思う。この辺の開発ができると良いと思う。例えば、コンクールをすればとか、何かそのようなことがあれば良いと思う。

委員：

特産品について、お店でもお客さんから東大和の特産品は何かありますかと聞かれるが、お客さんに提案できる特産品が無い。東大和の特産品が開発できれば良いと強く思っている。SDGsの取組の中で地産地消という取組を強化していきたいと思っているが、狭山茶、梨があるが、地産地消の商品を使ったレシピが提案できて、商品も提案できれば良いと思う。その辺も開発できれば東大和のPRになっていくと思う。会社では他県から来る人も多いが、東大和を知っている方が少ない。東大和の良さや住んでいる方に愛着を持ってもらうために何が対外的にPRできるのかということをやっつけていかないと浸透して行かないと思う。東大和のロゴマークを当店のトイレにつけているが、東大和に愛着を持っていただいて長く住んでいただくところが非常に重要だと思うので、観光もそうだが、対外的に東大和を知っていただく取組を進めていければ良いと思っている。コロナが急激に拡大してきたが、うまかんべえ～祭やイベントも重要だと思うので、地元と連携した中で東大和をPRできる商品づくりや、何か連携できるものがあれば、私としても会社としても進めて行きたいと思っているので全面的に協力したい。

委員：

7ページの「しごとをつくる」のところで、創業塾を27年度から実施している。だいぶ起業の方がいる。起業された方々に対して、その後のフォローができているのか。起業しても続けていけない方が多くいるというのが現実である。是非、フォローをしていただけたらと思う。例えば東大和の中で創業し続けられている方が多いと言うのであればそれをアピールすることも良いと思う。仕事で外を回っている中で農家の取引先が結構ある。高齢化が進んでいるが、農地が今後も有効に活かされるように他の自治体では農業法人が入ってくるなど農地を活かすこともしている。それに限らないと思うが、せっかく農地としてこれだけ緑があるので、私としては農地を残してもらいたい。農地が活かせるようなまちづくりができれば良いと思う。

また、現在、世の中は、DXのことが言われていて市の方でもDXの専門部署を作っている。ぜひ、これをうまく活用してもらい市役所が縦割りだと言われているが、DXの部署が横断的に対応してやってもらえたら良いと思う。

委員：

創業塾を受けて、なおかつ、中小機構ビジネスの会員であった方へのフォローは、今まで行っていなかったが、それに気づいて来月からOB会OG会を始めることにしている。創業塾を受けた方のフォローに関しても、今後産業振興課と連携して追いかけて行ければ良いと思う。フォローして、創業を続けている方が何人もいれば東大和で創業ということ違う形で近くの自治体等にアピールしていけると思う。

(2) 前回の会議以降の取組について

事務局から、内容(2)について報告した。

【要旨】

- ・市では、関東学院大学の大学生の協力を得て、東大和市を彩る地域資源を再発見し、大学生の視点からポスターとしてまとめ、公表する「東大和市魅力「彩」発見ポスター制作事業」を実施している。
- ・東大和市にとって「魅力」になるはずの要素が、市民等に知られていないことがある。それらの情報を大学生がまとめ、ポスターとして制作するものである。
- ・意外と知られていない東大和市の事実、「東大和市の自慢できる場所(こと)」をポスター制作の課題(テーマ)とし、課題(テーマ)に沿ったポスターを作成して、大学生の視点から市の魅力ある地域資源の理解促進を図る。
- ・全5回程度のポスター制作を予定しており、第1弾のテーマは、「多摩湖」とした。選定されたポスターは、市内公共施設に掲出したほか、SNS等で情報発信した。また、読売新聞、YAHOOニュース及びJ:COMにて情報発信され、一定の反響があった。

委員:

「東大和市魅力「彩」発見ポスター制作事業」のポスターの公共施設に貼ってあるサイズは、ひとつか。もう少し大きくても良いのではないか。

掲載場所として、例えば、イトーヨーカドー、大型商店、玉川上水駅、東大和市駅、武蔵大和駅への掲出はどうか。

事務局:

モノレールの駅には貼ってある。大きさについては、自前の印刷でA3サイズである。工夫してできるようなら大きいサイズにしたい。なるべく目立つところに置きたい。第2弾もあるので、できるだけ目立つようにしたい。市民ロビーのところにデジタルサイネージという看板があるが、そこにかなり大きな形で表示している。

事務局:

会議日程について、次回会議は、令和4年11月12日(土)午前9時30分から第6会議室で開催するので、予定の確保をお願いしたい。

座長:

以上で本日の会議を終了する。